

# 子宮頸がん予防ワクチンのお知らせ

＜ヒトパピローマウイルス感染症予防接種＞

現在、子宮頸がんワクチンの接種は、積極的にお勧めをしていません。

\* このお知らせと別紙ワクチンについての説明書をよく読んで接種をしてください。

子宮頸がんは、子宮頸部(子宮の入り口)にできるがんで、日本では年間約9,000人が発症し、特に20～30代の若い世代で急増しています。子宮頸がんの原因はヒトパピローマウイルス(HPV)というウイルスで、誰でも感染する可能性があります。感染しても、多くの場合は一時的で、ウイルスは自然に排除されますが、感染した状態が長く続くと、数年から十数年かけて前がん病変(がんになる前の異常な細胞)を経て子宮頸がんを発症することがあります。

子宮頸がん予防ワクチンは、子宮頸がんの主な原因であるHPV16型と18型のウイルスに効果があります。ただし感染を防ぐ効果であって、すでに感染している人に対してウイルスを排除したり、すでに発症している子宮頸がんや前がん病変の進行を遅らせたりすることはできません。

## 1. 予防接種対象者

小学校6年生～高校1年生に相当する年齢の女子 (標準的な接種時期は中学校1年生)

## 2. 予防接種の場所・日時

別紙一覧表に記載の指定医療機関で受けてください。

(日時は医療機関によって異なりますので、あらかじめ電話でご確認ください。)

なお、他区(22区)の指定医療機関でも受けられますので、接種を希望する医療機関又はその区の保健所にお問い合わせください。

## 3. 予防接種の費用

無料 ただし、指定医療機関以外で受ける場合は有料になります。

## 4. 予防接種を受けるときは

このお知らせとワクチンについての説明書を必ずお読みになり、お子様の体調の良いときに接種をしてください。

予防接種の当日には、予防接種記録票(医師記入欄以下を除く質問事項に記入したもの)を母子手帳と一緒に持参してください。

接種後は、血管迷走神経反射として失神することがあるため、すぐに帰宅せず、少なくとも30分は医師の指示に従い、座って安静にしてください。

## 5. 保護者が同伴しない場合

お子様の予防接種は、原則保護者の同伴が必要になりますが、13歳以上の方への子宮頸がん予防ワクチンについては、保護者が同伴しなくても接種をすることができます。ただし、このお知らせと別紙ワクチンの説明書をよく読み、接種をするか判断してください。判断に迷ったときは、かかりつけ医や保健所に確認して十分納得したうえで決めてください。

同伴しない場合は、接種日当日、予防接種記録票の回答欄等と自署欄 に必ずご記入いただき、お子様に持たせてください。

自署欄 に署名がない場合は接種できません。

＜裏面も必ずお読みください＞

## 6 接種方法

### \* 接種回数・・・ 3回

現在、子宮頸がん予防ワクチンは2種類あります。2種類のワクチンの併用について、安全性・有効性は確認されていないため、必ず、同じ種類のワクチンを続けて3回接種してください。2種類のワクチンを併用することはできません。

#### サーバリックス の受け方

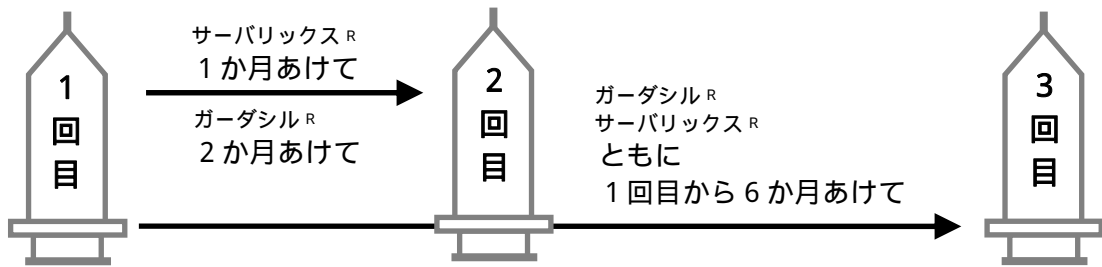
1か月の間隔をおいて2回接種し、1回目から6か月の間隔をおいて1回接種する。  
 (1か月以上) (5か月以上かつ2回目の接種から2か月半以上)

#### ガーダシル®の受け方

2か月の間隔をおいて2回接種し、1回目から6か月の間隔をおいて1回接種する。  
 (1か月以上) (2回目から3か月以上)

どちらのワクチンも子宮頸がんに効果があります。詳しくは医療機関に相談してください。

#### 標準的な接種の仕方



子宮頸がん予防ワクチンについての

《問合せ先》 渋谷区保健所 地域保健課 感染症対策係 電話 3463-2416

\* ~ \*

#### 健康推進係からのお知らせ



### 20歳になったら子宮頸がん検診を受診しましょう

20～30歳代の女性に子宮頸がんが増えています。

その原因はヒトパピローマウイルス（HPV）です。

HPVの感染予防にはワクチン接種が有効ですが100%ではありません。子宮頸がん予防のためには、がんになる前に異常を見つけることも大切です。

現在、区では20歳以上の女性を対象に隔年で子宮頸がん一次検診を行っています。予防接種をした人も20歳になったら定期的に検診を受けましょう。

【問い合わせ】地域保健課健康推進係 03-3463-2412